

作成日

わたしの災害対策ファイル

お名前

医療機器等使用状況確認欄

医療機器名	チェック	ページ
人工呼吸器		P2
酸素濃縮器		
パルスオキシメーター		
吸引器		P3
電動ベッド		
エアマット		
電動車いす		
輸液ポンプ		
排痰補助装置		
発電機		

見直し日	作成協力者、共有した支援者

横浜市

1 停電時の対策

●医療機器ごとの確認内容とポイント

◎人工呼吸器

→内部バッテリー あり ・ なし

持続時間 時

作動の再確認のチェック

→外部バッテリーの準備 あり ・ なし

持続時間 時間

作動の再確認チェック

【ポイント】人工呼吸器

- ①停電時のバッテリーの切り替え方法と持続時間を確認しましょう
- ②蘇生バッグの練習を訪問看護師さんと一緒におきましょう
(練習日: 年 月 日)
- ③医療機器メーカーへ停電時の対処方法について確認しておきましょう
- ④落雷対策も必要です(雷サージ対応コンセントの使用や雷鳴時にコンセントを抜きバッテリー動作に移行するなど具体的に話し合っておきましょう)

◎酸素濃縮器

流量 ℓ/分

○予備の酸素ボンベ

ℓが 本

→ 時間もちます

【ポイント】酸素濃縮器

- ①停電時はすぐに酸素ポンベに切り替えましょう(酸素濃縮器にはバッテリーが内臓されていないものが多いです)
- ②酸素ポンベを使用する際に必要な電池を常備しておきましょう
- ③酸素ポンベで酸素が何時間もつか確認しましょう
- ④わからないことは医療機器メーカーへ確認しましょう

◎パルスオキシメーター

- #### 【ポイント】パルスオキシメーター
- 携帯用パルスオキシメーターを使用する際に必要な電池を常備しておきましょう

◎吸引器

→内部バッテリー 分

○予備の吸引器がある場合

→内部バッテリー 分

○停電に備えて準備しましょう

手動吸引器 足踏み吸引器

(準備した項目の にレでチェック)

【ポイント】吸引器

- ①一回の吸引時間については個人差があります
- ②手動・足踏みの吸引器がある場合は訪問看護師さんと一緒に練習しておきましょう
(練習日: 年 月 日)

【ポイント】電動ベッド

- ①手動で操作が可能かどうかベッドの業者に確認しましょう。
(業者の確認日: 月 日)
- ②停電の可能性が高い状況(雷・台風など)になったら、ベッドを水平に戻しましょう。

◎電動ベッド

手動 あり・なし

【ポイント】エアマット

- ①エアマットが使えない場合の除圧対策(褥瘡予防マットレスやクッションの使用)について検討しておきましょう
- ②長時間の停電では空気が抜けるものがあるので、どのような対応をしたらよいか業者に確認しましょう

◎エアマット

→停電時にエアマットが利用できる時間

時間

【ポイント】電動車いす

バッテリー残量を確認しておきましょう

◎電動車いす

→停電時に使用できるよう日頃から充電しておきましょう

【ポイント】輸液ポンプ

- ①停電時の対応について 主治医に確認しておきましょう
- ②停電時に対応できるよう単三電池を常備しておきましょう
- ③手動に切り替えるために訪問看護師さんと一緒に練習しておきましょう
(練習日: 年 月 日)
- ④わからないことは医療機器メーカーへ確認しましょう

◎輸液ポンプ

→内部バッテリー 時間

【ポイント】排痰補助装置

停電時には他の機器も使用できなくなるため、痰の性状が変わり、吸引しにくくなることも考えられます。事前に対処方法を検討しておきましょう。

◎発電機

あり なし

○車のシガーソケット

あり なし

【ポイント】発電機・車のシガーソケット

- ①発電機の燃料やエンジンオイルを常備しておきましょう
- ②発電機使用の際は必ず屋外で使用しましょう

2 自宅で過ごせなくなった時の対策

- 長引く停電 ○土砂災害や地震で自宅が倒壊
- 近所で火事起きた
- 台風接近により避難勧告が出た など



ご自分の避難について考えておきましょう！

★あなたのエリアの地域防災拠点とは

地域防災拠点

<住所

地域防災拠点は情報の集約場所です

★入院が必要になったら 相談先（主治医）は？

医療機関

主治医

電話番号

【ポイント】

- ①区防災マップなどで最寄りの地域防災拠点・広域避難場所を確認しましょう
・地震、風水害、火災など災害により避難先が異なることもあるので、それぞれの災害に応じた避難場所を確認しましょう
- ②自治会の防災訓練などを確認し、日頃からご近所とお付き合いしておきましょう
- ③民生委員や自治会・町内会役員とも顔なじみになっておきましょう
- ④発災時の対応
・関係者にわかるように避難先を貼り出しておきましょう
・自分たちの安否を地域防災拠点に伝えましょう

【ポイント】

万が一の入院に備えて、日頃から主治医と入院先について話し合っておきましょう

★具体的な避難方法は？

誰と一緒に

【ポイント】

必要な機材・物品も一緒に運ぶことを想定して考える必要があります
 予想以上に人手が必要な事があります
 一度避難訓練をしてみましょう
 日常の外出も訓練になります

方法

【例】近所の方の協力を得て、担架でマンション下まで避難。その後、リクラニング車いすで移動

最低限何を持っていく必要がありますか



■避難時の持ち出しセット(事前に外出用リストを作成しておきましょう)

準備した項目の□にレでチェック

<input type="checkbox"/> 人工呼吸器	<input type="checkbox"/> 外部バッテリー(個)	<input type="checkbox"/> 呼吸器回路
<input type="checkbox"/> 人工鼻(加温・加湿)	<input type="checkbox"/> 蘇生バッグ	<input type="checkbox"/> 吸引器
<input type="checkbox"/> 吸引チューブ(本)	<input type="checkbox"/> アルコール綿(箱)	<input type="checkbox"/> 蒸留水(本)
<input type="checkbox"/> 経管栄養セット(セット)	<input type="checkbox"/> 経腸栄養剤(個)	<input type="checkbox"/> 保険証、医療証、障害者手帳
<input type="checkbox"/> お薬手帳	<input type="checkbox"/> 薬	<input type="checkbox"/> 延長コード
<input type="checkbox"/> 文字盤	<input type="checkbox"/> おむつ(個)	<input type="checkbox"/> ウェットティッシュ(パック)
<input type="checkbox"/> 使い捨て手袋(箱)	<input type="checkbox"/> ビニール袋	<input type="checkbox"/> ポータブルバッテリー
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

【ポイント】

緊急時に最低限持ち出すものは
 身近なところに一か所に
 まとめておきましょう
 介助者の準備も忘れずに

医療機器の対策・お薬など必要品の備えはできていますか？

チェックしてみましょう

- ベッド周囲の安全は確保されていますか(家具の転倒防止、周囲の落下物確認)
- 懐中電灯など非常時の明かりの準備はしていますか
- 携帯ラジオなど情報を得る手段はありますか
- 持ち出し物品の準備はしていますか
- 水・食料品の備蓄はありますか
- お薬手帳には最新の処方内容が記載・整理してありますか
- 薬は1週間程度多めに備えてありますか
- 人工呼吸器の設定は誰が見てもすぐわかるように表示していますか
- 酸素流用の設定は誰が見てもすぐわかるように表示していますか
- 輸液ポンプの設定は誰が見てもすぐわかるように表示していますか
- 胃ろうのある方は栄養剤など、日頃使用しているものを多めに備蓄してありますか
- 胃ろう・人工呼吸器等の医療処置に必要な物品は多めに備蓄してありますか

※最低3日間、自宅で生活ができるように必要なものを準備しておきましょう

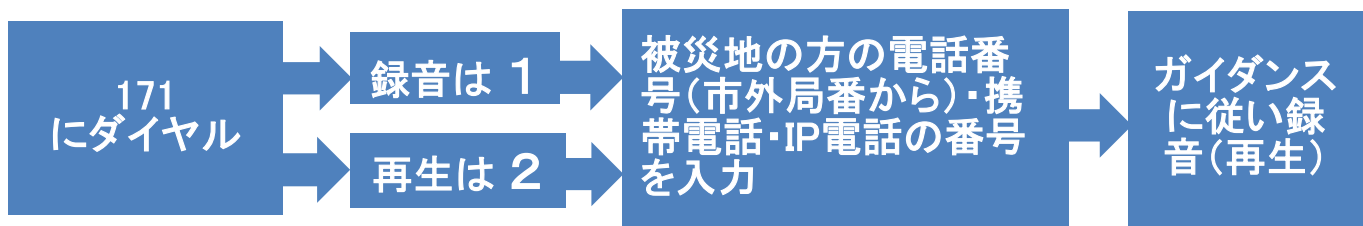
このファイルをもとに、災害時に備えて準備をすすめてみましょう
また、定期的な見直しも必要です

生活面で注意してほしいこと

災害伝言板 家族や関係機関等と安否の確認方法を決めておきましょう。

災害用伝言ダイヤル171

固定電話や携帯電話を利用して安否情報を確認する「声の伝言板」です。



※伝言は被災地の方の電話番号を知っている全ての人が聞くことができます。
聞かれないメッセージを録音する場合は、事前に暗唱番号を決めておく必要があります。

災害用伝言版(web171)

- 1 Web171 検索 もしくは <https://www.web171.jp> へアクセス
- 2 伝言を入力／確認するため被災地の方の電話番号を入力
- 3 説明に従い、入力／確認

毎月1日・15日に体験利用ができます

自宅で電源が必要な医療機器を使用中の方へ (ご案内)

「わたしの災害対策ファイル」作成について

発災時、家屋の倒壊や危険がない場合は、自宅で最低でも3日間は過ごせるように準備しておくことが重要とされています。

横浜市では、人工呼吸器等の電源を必要とする医療機器を使用されている方に、災害時を想定して平時から準備を確認していただくために、「わたしの災害対策ファイル」の作成をお勧めしています。

このファイルを活用して、発災時の対応や、必要物品、連絡先など、ご本人、ご家族、身近にいる支援者や関係者で確認をしてみてください。

平時から災害対策を考えて、いざというときに備えましょう。